

マンガで学ぶ予防接種 ～染子先生のおはなし～

その⑧

おたふくかぜってなあに？

国立感染症研究所 感染症疫学センター

知ってるよ！
ほっぺがぷくっと
膨れちゃう風邪の
ことでしょ？



まなぶ
学くん

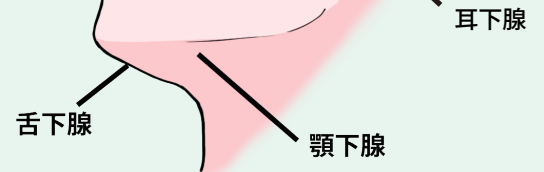
学くん、
おたふくかぜって
知ってる？



そめこ
染子先生

おたふくかぜはムンプスウイルスの飛沫感染、接触感染によって起こる病気です。感染後、ウイルスは全身に広がって各臓器に病変を起こします。潜伏期は2～3週間ほどで、周囲の人に感染させる可能性のある期間は、発病数日前から耳下腺、顎下腺もしくは舌下腺が腫れ始めたあと5日間を経過する頃までと考えられています。おもな症状は耳下腺の腫れで、痛みをともないます。顎下腺、舌下腺が腫れることもあり、発熱をともなうこともあります。

実はね、腫れるのは
ほほじゃなくて
耳の横から下にかけてと
顎のあたりなの。



年長児や成人が罹患すると、重症で、合併症の頻度が高くなります。合併症のうちもっとも多いのは無菌性髄膜炎で、診断される頻度は1～10%です。ほかには、頻度は少ないですが脳炎、膵炎などになることもあります。男性では精巣炎、女性では卵巣炎を合併することもあります。特に、難聴合併への注意が必要です。

それにただの
風邪じゃないわ。
合併症によっては、
耳が聞こえづらくなる
危険があるのよ

ええっ！？



おたふくかぜワクチンは、ムンプスウイルスを弱毒化した生ワクチンです。ワクチン接種後の抗体陽転率は90%以上と高いです。

現在市販されているおたふくかぜワクチンの副反応としては、発熱や耳下腺の腫脹が0.1～5%未満の頻度で見られます。無菌性髄膜炎の副反応報告は、ワクチン接種を受けた人1,600～2,300人に1人程度とされています。

おたふくかぜにかかると無菌性髄膜炎の合併が1～10%あること、さらに難聴のおそれもあること、長期間学校や幼稚園、保育所等を欠席しなければならないこと、好発年齢が3～6歳であることなどを考慮すると、1歳になったらできるだけ早めに1回目を受けることをお勧めします。また、日本小児科学会は予防効果を確実にするため、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）第2期と同時期に2回目の接種を推奨しています。

標準的な接種のしかた

〔接種年齢〕 1歳以上

〔接種間隔・回数〕1歳のあいだに1回目、小学校入学前1年間のあいだに2回目を接種するのが望ましい。
いずれも1回に0.5mLを注射します。



かかりつけの小児科の先生とよく相談して、
お子さまをおたふくかぜから守りましょう。